

過去から津波について学ぼう

チリ地震津波の恐怖再び

わたしたちの住む三陸沿岸は、津波により幾度となく大きな被害を受けてきました。強い力を持って襲来する津波に対してどう備えればよいのでしょうか。今回は、昭和35年と本年2月の2度にわたり襲来したチリ地震による津波を振り返ります。過去の津波からその恐ろしさを学び、防災について考えてみましょう。

本町を襲った4メートルの波

わたしたちの住む三陸沿岸は、津波により幾度となく大きな被害を受けてきました。昭和35年5月23日午前4時ころ、南米チリで発生した大地震により、約17000キロ離れた日本にも津波が襲来。本町には24日午前2時半ころに第一波が到達しました。津波は翌25日の朝まで何度も押し寄せ、大きな被害をもたらしました。本町での最大波高は織笠で観測された4・0メートル。これは24日の午前4時半ころに襲来した第三波でした。この波により漁業施設や家屋などが大破しましたが、漁業者が湾内の異常に早く気づいたこともあり死者はありませんでした。

津波への認識見直そう

そのチリ地震津波から50年目となる本年2月28日午前9時33分、再びチリで発生した地震による津波で、本県沿岸に大津波警報が発令されました。今回は、

◆チリ地震津波による被害の比較

	昭和35年5月24日のチリ地震津波被害	平成22年2月28日のチリ地震津波被害
人的被害	軽症1人、重症1人	なし
住家被害	全半壊および流出家屋 346戸	なし
漁業施設被害	かき、のり養殖施設 4,456台	はえ縄施設 155台 養殖筏 265台
被害総額	12億9,300万円	6,580万円

資料：山田町津波誌

最大波高が1・6メートルと前回より低かったこともあり、人的被害や家屋などへの被害はありませんでしたが、養殖施設などは甚大な被害を受けました。過去二度にわたり遠地地震により襲来した津波。強い力で押し寄せる津波から命を守るためには避難するしかありません。過去の津波被害からその恐ろしさを学び、津波への認識を見直すと共に、いつでも避難できるような備えを心掛けましょう。

波と津波はどう違う？

普通の波と津波の違いは波の長さ（波長）です。風で発生する普通の波の波長が数センチなのに比べ、津波は地震による海底の変動で起きるため、数メートルに及びます。



このため海岸に押し寄せたとき、普通の波が一瞬で碎けてしまうのに対し、津波は洪水のような強い流れを伴って押し寄せます。また、津波は何度も繰り返して襲来するほか、V字型の入り江や湾では、波が急激に高くなるなど、海の条件によって姿を大きく変えます。





2010年



④潮位が上昇し、波が堤防を越えて押し寄せました（境田地区・撮影時刻 午後4時31分）／⑤同地区での潮位が上昇する前の様子。堤防がしっかりと見えています（撮影時刻 午後4時15分）／⑥津波により甚大な被害を受けたはえ縄施設の撤去作業の様子（大沢地区）

写真で振り返るチリ地震津波



1960年



①三本小松から津波被害にあった山田町内を望む写真／②軒下まで水没した家屋（北浜町）／③西川を逆流してきた津波（川向町）



総合防災訓練行います

町では、9月5日（日）に山田町総合防災訓練を実施します。チリ地震津波から50年目を迎えた今回は、津波避難訓練、救出救助（海難）訓練などを行いますので、皆さんの参加をお願いします。詳しい訓練内容については、次号でお知らせします。

◆問い合わせ 町総務課危機管理室（内線460）へ。

◆問い合わせ 盛岡地方気象台総務課（019-622-7869）へ。

気象台職員出向きます

盛岡地方気象台では、津波防災についての出前講座を行っています。

津波から命を守る講座

チリ地震津波体験者に聞く Interview



中村 鉄郎さん（長崎・80）

その当時、わたしは国鉄に勤務し職場は陸中山田駅でした。50年前の5月24日早朝、家内の「津波だ」という声で起こされ、当時三本小松（境田町）にあった自宅から山田湾を見下ろすと、潮がオランダ島まで潮が無いという異常な光景が広がっていました。急いで線路を伝って出勤すると、波は駅前まで押し寄せていて、魚市場の木樽や木箱が辺りに散乱していました。幸い駅への被害が無かったので、織笠駅へ応援に向かうとホームから津波の襲来がはっきりと見えました。波が織笠川をじわじわと遡上してくると、波に飲み込まれた家屋は屋根だけ水面に出ていました。その間を何隻もの船が上流に流されていくと、今度はものすごい速さで海に引っ張られました。船が家を壊しながら戻っていくその光景は恐ろしいもので、今でも忘れられません。